

著作権問題に関するご注意

最近、諸外国の例を含めて著作権・出版権をめぐるトラブルが増えております。学会誌、論文報告集をはじめ学会出版物へ投稿される場合、他の文献からの引用にあたっては、出典明記や執筆者の責任における事前許諾など、所定のルールがありますので十分にご配慮下さい（野々村敏：著述と引用、土木学会誌 63 巻 12 月号、p. 77 参照）。また、学会出版物とくに示方書や基準類等からの引用も事前に文書による許可が必要な場合がありますので、手続きは事務局編集課へお問合せ願います（内容によってはコピーまたは校正刷の提出を求めることがあります）。

（土木学会事務局編集課）

●討議について●

この論文報告集に掲載された論文に対する討議はすべて土木学会論文編集委員会あてとし、その締切期日は昭和57年3月20日とする。

All communications and discussion (open until March 20, 1982) relating to the papers included in the Proceedings should be addressed to the Editorial Committee on Technical Publications, Yotsuya 1-chome, Shinjuku-ku, Tokyo, 160 Japan

土木学会論文報告集に投稿される場合は、「土木学会論文報告集投稿要領」をご参照のうえ原稿をお寄せ下さい。「投稿要項」をおもちでない方は学会事務局編集課へご請求下さい、お送りいたします。

土木学会論文編集委員

◎印 主 査 ○印 幹 事

委員長	吉川和広	副委員長	首藤伸夫	幹事長	竹内邦良		
委員	赤石勝	委員	大森邦雄	委員	○関博	委員	長谷部正彦
〃	秋山晴樹	〃	緒方信英	〃	善功企	〃	早川典生
〃	芦沢哲蔵	〃	奥村忠彦	〃	高須修二	〃	林上正一
〃	足立紀尚	〃	梶太隆	〃	高田至郎	〃	樋上寛允
〃	阿部行雄	〃	桂樹正真	〃	高津俊司	〃	〇藤野陽三
〃	荒井孝雄	〃	神山直能	〃	〇竹内邦良	〃	〇堀江毅
〃	飯島尚治	〃	〇木村孟	〃	武田宏夫	〃	堀江康訓
〃	〇池田信隆	〃	京才俊則	〃	武田文夫	〃	松岡散春
〃	石田東生	〃	栗原則夫	〃	田中總太郎	〃	官井信証
〃	今本健人	〃	黒田勝彦	〃	田中伸和	〃	〇明神耕一
〃	〇岩崎征幸	〃	小葉竹重	〃	田村幸男	〃	山形健太郎
〃	上島照人	〃	〇小林芳顕	〃	谷口紀久	〃	山本晃彦
〃	魚本健一	〃	後藤親次	〃	〇徳江秀彦	〃	山本恒昭
〃	牛尾健介	〃	齊藤憲	〃	富田六郎	〃	吉田晃一
〃	梅木健一	〃	阪井孝修	〃	長井正嗣	〃	渡辺晃一
〃	江頭和彦	〃	篠原正夫	〃	波田凱夫	〃	渡辺英一
〃	越後勇吉	〃	嶋田正大	〃	成田朝男		
〃	海老瀬潜	〃	〇首藤伸二	〃	西村宜男		
〃	恵谷舜吾	〃	杉浦征二	〃	長谷川和義		
〃	太田俊昭	〃	須田 瀬				
〃	大町達夫						

土木学会論文報告集 No. 313

定価 1000 円

昭和56年9月15日 印刷

昭和56年9月20日 発行

発行者 東京都新宿区四谷1丁目無番地

社団法人 土木学会 専務理事 川越達雄

発行所 社団法人 土木学会 郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目無番地 振替東京 6-16828 番

電話 (03) 355-3441

お知らせ

土木学会論文報告集購読についてのお願い

土木学会では、土木学会誌とともに毎月土木学会論文報告集を発行し、希望者にのみ送本しておりますが、論文投稿件数に比較して、購読者数が伸び悩んでおります。

論文報告集が、わが国の土木工学に関する技術ならびに学問の発展にとって、中心的な役割を果たしていくためには、水準の高い論文、技術の進歩にとって有用な記事が掲載されることが最も重要と考えます。

土木学会では、論文報告集等の定期刊行物のあり方について、鋭意検討を進めております。現在検討中の主なものとしては、投稿論文の中で英文論文の比重を高め、国際交流を活発化していくこと、また、質の高い招待論文を掲載していくこと等であります。さらに、学会誌の中から、技術水準の高い内容を持った専門的な報告記事を論文報告集に移していくこと、新しい技術についての解説記事を積極的に取り上げること、委員会活動の成果の発表を掲載すること等によって、内容の多様化に努め、より多くの会員に共通の関心を持っていただけるような企画となるよう努力して参りたいと考えております。

さしあたり、56年度は、論文報告集の内容を充実するとともに、年間100ページの増ページを行い、受付から掲載までの期間をできる限り速くするよう努力を重ねております。

論文報告集は、購読者と投稿者、委員会が一体となって、初めてよい内容のものとする可以考虑です。会員の協力と理解がなければスムーズな発行は困難です。会員各位には、この機会にぜひ論文報告集を購読されますようお願い致します。

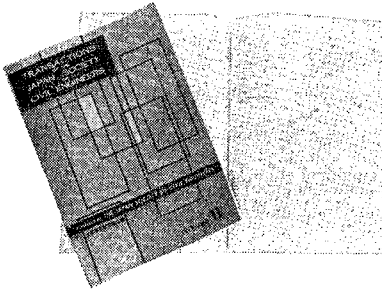
論文報告集の購読は、会員であればどなたでも結構です。氏名と会員番号を土木学会会員課（電話 03—355—3441 番 内線 33, 34）へお知らせ下されば56年4月号より送本致します。購読料は年間6600円です。

英 文 刊 行 物 案 内

土木学会では、日本の土木技術を広く海外に紹介するため、「英文の刊行物」を刊行しております。是非ご活用下さいませようご案内申し上げます。

Transactions of JSCE

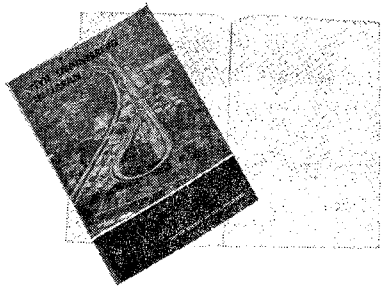
本書は「土木学会論文報告集」に掲載された論文を抄訳し、部門別に分け海外へ紹介するために編集されたもので文部省の研究開発補助金を得ている。



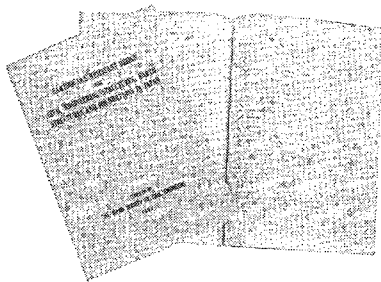
1969	Vol. 1	part 1	B 5 · 176	1500 円
1970	Vol. 1	part 2	B 5 · 506	1500 円
1970	Vol. 2	part 1	B 5 · 176	1500 円
1971	Vol. 2	part 2	B 5 · 338	1500 円
1972	Vol. 3	part 1	B 5 · 114	1500 円
1973	Vol. 3	part 2	B 5 · 256	1500 円
1973	Vol. 4		B 5 · 254	3000 円
1975	Vol. 5		B 5 · 254	3500 円
1975	Vol. 6		B 5 · 176	4700 円
1976	Vol. 7		B 5 · 232	5400 円
1977	Vol. 8		B 5 · 300	5900 円
1978	Vol. 9		B 5 · 298	6400 円
1980	Vol. 11		B 5 · 350	6900 円

Civil Engineering in Japan

各年度の海外PR版、年度ごとに主要工事のトピックスなどを写真・図版で多角的に紹介。



1961	Vol. 1	A 4 · 80	700 円
1962,3	Vol. 2	A 4 · 126	700 円
1964	Vol. 3	A 4 · 142	1000 円
1965	Vol. 4	A 4 · 138	1200 円
1966	Vol. 5	A 4 · 128	1200 円
1967	Vol. 6	A 4 · 86	1200 円
1970	Vol. 9	A 4 · 182	1500 円
1971	Vol. 10	A 4 · 116	1600 円
1972	Vol. 11	A 4 · 146	1600 円
1974	Vol. 13	A 4 · 160	2000 円
1975	Vol. 14	A 4 · 206	2500 円
1976	Vol. 15	A 4 · 150	2500 円
1977	Vol. 16	A 4 · 180	3000 円
1978	Vol. 17	A 4 · 205	3000 円
1979	Vol. 18	A 4 · 199	3500 円
1980	Vol. 19	A 4 · 196	3500 円



Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures, and Foundations in Japan.

定価 4000 円 (〒350 円)

土質、ダム、上水道、港湾、橋梁など土木構造物のわが国(英文版)耐震規定の1980年最新版。

創立以来 67 年の歴史を誇る学会出版物

✓ 航空写真のみかた 3800円	土木工事の積算と実際 4800円
自動作画の基礎技術 3000円	構造力学公式集例題集 3600円
衛生工学実験指導書 (プロセス編) 1800円	土木材料実験指導書 (基礎編)800円 (応用編)1000円
衛生工学実験指導書 (現場調査編) 2600円	コンクリート構造物の限界 状態設計法試案 2800円
土質実験指導書 700円	測量実習指導書 1000円
水理実験指導書 改訂中	構造実験指導書 改訂中
土木製図基準 2800円	製図のかき方 <small>線の引き方から 透視図のかけるまで</small> 2500円

コンクリート標準示方書	昭和 55 年版	3100円
コンクリート標準示方書解説	昭和 55 年版	3600円
プレストレストコンクリート標準示方書		3000円
✓ トンネル標準示方書 (山岳編) ・同解説		2450円
✓ トンネル標準示方書 (シールド編) ・同解説		2450円
✓ 地下貯油施設技術指針案		2600円
✓ ダム基礎岩盤グラウチングの施工指針		1100円

講習会

TOKYO→OSAKA→SAPPORO

自動作画の基礎技術

主 催：土木学会(自動作画小委員会)

共 催：関東支部・関西支部・北海道支部

最近における計算機のめざましい発達は土木技術関係にも広く影響し、理論計算や設計計算においては、今や日常の道具といった段階に達した。そして、製図・グラフ・透視図などの図化にも、盛んに応用されるようになってきている。

さらに、単に図面にとどまらず例えば橋梁製作においては、この技術を鋼板の自動切断や孔明け、材料の数量集計に、また、道路建設では土工量の算出などに用いている。自動作画技術の発達は計算機やプログラムの発達のみでなく、作画機械の開発とも深い関係があるのは当然で、すでにハード的にもソフト的にも相当高度に開発されている。

本書においては、現在一般的に使用されている技術に重点をおき、例えばラインプリンタのような手近な機器でも可能な例を示し、親しみがもてるように努めたつもりである。そしてさらに、将来への発展を考え、自動作画の考え方・将来への展望についても言及した。〈はしがきより抜粋〉

今回発行をみた「自動作画の基礎技術」を教材にした、わかり易い価値ある講習会。

会 場 (定 員)	場 所	開 催 期 日
東 京 (100名)	土木学会土木図書館講堂 東京都新宿区四谷1丁目 ☎(03-355-3441)	56年11月11日(水)
大 阪 (100名)	大阪科学技術センター中ホール 大阪市西区靱本町1-8-4 ☎(06-443-5321)	56年11月18日(水)
札 幌 (100名)	北海道建設会館9階大会議室 札幌市中央区北4条西3丁目 ☎(011-261-6181)	57年2月18日(木)

※各会場とも満員になり次第締め切ります。

日 程	内 容	講 師		
		東京会場	大阪会場	札幌会場
9:30~9:40	開 会 挨 拶	自動作画小委員会委員長 阿 部 英 彦	関西支部長 丹 羽 義 次	北海道支部長 北 郷 繁
9:40~10:40	自動作画の考え方	名古屋大学教授 島 田 静 雄		
10:40~11:40	自動作画の原理とシステム	名古屋大学教授(図学) 田 嶋 太 郎		
13:00~14:00	曲線の自動作画	名古屋大学教授 島 田 静 雄		
14:00~15:30	自動作画の応用	(株)オリエンタルコンサルタンツ 清野 茂 次 日本鋼管(株) 田 中 征 登	濠上工業(株) 熊 沢 周 明 高田機工(株) 堀 川 勲	北海道開発コンサルタント(株) 津 田 義 和 H田(株)北海道営業所 日 野 英 彦
15:40~16:30	将来への展望	東京大学助教授 村 井 俊 治		
16:30~16:55	質 疑 ・ 応 答			

受 講 料：10 000円(会員)
13 000円(その他一般)
●テキスト代を含む

使用教材：「自動作画の基礎技術」(3 000円)
問 合 せ 先：土木学会事務局編集課(〒160東京都新宿区
申 込 先：四谷1丁目無番地 Tel.03-355-3441/(内24)